

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2094000151		
法人名	株式会社 北アルプスの風		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ほっとハウス・あかしの家		
所在地	長野県安曇野市明科中川手4246-1		
自己評価作成日	平成29年1月16日	評価結果市町村受理日	平成29年3月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成29年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほっとハウスの基本理念として「おひさま暮らし」がある。私たちは「おひさま」のような温かいホーム、「我がまま(自分らしく)でいい」暮らしの実現を目指している。私たち職員は笑顔で挨拶、声掛けからはじまるケア技術・知識・心の質の向上のために、日夜研鑽を惜しまない。また、ご利用者の尊厳に配慮し、施設側・職員側のペース優先ではなく、利用者本位の介護を心掛けている。私たちは、笑顔の絶えない真心が通い合う日々と、ご家族や地域とつながっていくホームを築いて行くために、白を基調とした眺望豊かなあかしの家で一緒に暮らしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して2年目になる事業所である。「笑顔で挨拶」を合言葉に基本理念に沿って日々の支援に職員は取り組まれている。職員の笑顔と元気の挨拶が、利用者の「我がまま」を支える基礎となっている。そして、来所されるご家族の安心、信頼につながっている。また、協力医の先生と事業所の関係が良好であり、何かあれば往診して頂いたり、指示を頂き、適切な医療につながっていることは、何よりご家族の安心となっている。さらに、職員の日々の支援は、簡潔明解に丁寧に記録されている。今後、ケアの質の向上を目指すとき、充実した記録から、振り返り、今後のケアにさらに活かされていくことを期待するものである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(ひがし)		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	項目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「ほっとハウス・おひさま暮らし」を基本理念とし玄関、事務所、各ユニットに掲示し、共有できるようにしている。また、全体会議、内部研修、個人面談など折に触れて理念に付いて確認し合っている。</p>	<p>市内の同法人経営グループホームと理念は共通であり、開所して間もないことや地域性の違いに配慮して、共有に努めている。理念の中でも特に「笑顔・挨拶」を中心に管理者は確認しており、職員間でも共有・実践するよう努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>課題であった地域とのつながりは夏祭りの開催により参加者も多く、盛大に開催できた。近くの交流センターの児童や関係者との触れ合い、散歩時の挨拶、高校生のボランティア、社協との協力をしボランティアをお願いするなど広がりができた。</p>	<p>市役所支所や公民館などに隣接し、住宅街とは違った立地条件の中、管理者を中心に、職員は日常的なつながり、交流(近くの畑の方との挨拶など)に努力している。夏祭りでは、高校生のボランティアを新たに得て、たくさんの方に来て頂くことができた。</p>	<p>運営推進会議などを活用して、さらに地域との相互関係を築き、近所付き合い、地元の活動に取り組みされることを期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方などの施設申し込み、見学の希望時に認知症を持つ家族の悩み相談を受けたり認知症に付いて話をする機会を持っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月に1回開催をし、行政、地域、施設の内容など双方向での理解を目的とした内容。実際に職員の対応状況、食事内容など見て頂き、また、家族会に参加して頂く機会が持てた。意見、アドバイスなどを頂き、サービスの向上につなげている。</p>	<p>定期的で開催されている会議を有意義に活かすように工夫されている。避難訓練の実施、食事の試食、家族会への参加、事業所周囲における環境整備の検討。また、会議録を玄関に置き、いつでも見て頂ける配慮もされている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>認定調査時、また、運営推進会議の機会に事業所の日頃の様子をお知らせしたり、意見、情報を頂いている。</p>	<p>市町村担当者が来所する機会には、意見や情報の交換が実施されている。日常的にも電話連絡をこまめに行い、家族関係など困難事例に対するアドバイスを頂くなど、改善につながった事例もある。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」については会議、内部研修、外部研修にも参加し意識の共有化を図っている。玄関の施錠はしない事を基本としているがやむを得ない場合はスタッフの連携の中で開放に努めている。	「身体拘束をしないケアの実践」を正しく理解するために、会議冒頭で法人理事長からの説明、研修参加後の伝達講習などを活用している。計画的な研修以外でも、玄関の施錠、利用者の動きに合わせたケアなど日々確認しながら、職員間で連携して取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法の研修会を設け防止意識を深め、また、外部研修参加者より復命説明をして頂き認識を高めている。入浴時外傷などないかチェックをしている。確認されれば原因の明確化に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度においては行政機関の説明会に参加し理解を深めている。日常生活支援事業や成年後見制度の活用などについては必要時社協や市の担当者で話し合いを持ち、相談を受けられるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはきちんと説明し、不安や疑問点については理解し納得頂けるよう説明をしている。入居後に於いても、疑問点などあれば常に質問に応じ理解して頂くよう心掛けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時には苦情受付窓口について説明をしている。利用者・家族には何時でも何でも話し易い雰囲気づくりに努め、年1回の家族会の意見などはスタッフのサービス向上に反映されている。	家族会では、職員が席をはずし、運営推進委員(行政)の方に記録をお願いして意見を集約するなど取り組んでいる。利用者の意見、要望にもきめ細かく、応えるような職員の姿勢や取り組みの工夫(ノート活用)もみられる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課が導入され、年2回の自己評価表の提出を義務付け、面談を行う。自由に意見が言える内容と環境に努めている。また、全体会議、ユニット会議でも自由に何でも言える雰囲気づくりに努めている。意見は各所に反映させている。	毎月の全体会議、ユニット代表者会議では、ユニットごとに活発に意見交換がなされ、設備面での意見など迅速に改善されている。個人面談では、自由な雰囲気でも双方にとって有意義な時間となっている旨、うかがった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事制度による賃金規程を作成し、個々の努力や実績、勤務状況により、昇給、昇格を行い、各自が向上心を持って働ける仕組みがある。また、定年退職後の職員も個々の雇用契約で延長しながら、経験を活かした働き方も取り入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行っている。研修テーマは、介護現場で必要な研修はもとより、当該ホームで必要とされる研修を随時取り入れている。外部研修も希望者は参加できるよう働き掛けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社グループの事業所の職員との交流を図ったり、外部研修などで他事業所の方との意見交換をできるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と家族との面接を行い様子や性格、心配事などの把握に努め、特に入居1ヶ月程は様子を見守り、情報の共有化を図り、気持ちを引き出せるよう努め、穏やかなケアにより安心・安全な関係作りにつなげている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方にも、今までの暮らしの様子、習慣などをうかがい、グループホームでの生活との違いを理解して頂き、家の生活が継続できるように。家族との不安や要望に添えるよう、関係作りを進めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に現況を十分うかがい家族・利用者の求めていることは何かを把握し状況により他機関の紹介も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>笑顔と挨拶(礼節)のある暮らし、公平な対応をし名前は姓で呼ぶことを原則としている。排泄介助等日常の暮らしの中にもプライバシーに配慮し、プライドを傷付けない対応を心掛けている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時にホームの暮らしの状況を伝えたり、毎月のユニットだよりには活動内容や現況を添えている。状態により連絡を要すると判断する場合は相談、面会をお願いしている。来られた場合は気軽にお話ができるよう雰囲気づくりをしている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの友達・親戚などの関係が途切れないよう何時でも来て頂けるよう雰囲気づくりをしている。友人との交流。年賀状の交換などあり関係性の継続がある。</p>	<p>利用者により家族や仕事仲間など様々な馴染みの方に来所頂いている。利用者が退所された後も続けて、職員に会いに訪れる方もおり、関係が途切れない支援にも努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し和やかな交流が自然にできるような雰囲気づくりに努め、孤立しがちな方には、皆で楽しめるようなレクリエーションなどを工夫し、また、見守ることで安心感につなげている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後会う機会がある時など失礼にならないよう、様子をうかがったり相談に乗るなど関係が継続されている事例は有る。今後も大事にしていきたい。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の普段の会話や何気ないつぶやきを大事に、思いや暮らし方の希望、意向を把握しカンファレンスしている。意思表示の困難な方に付いては家族の協力や本人の表情、しぐさから得て本人本位のプランにつなげるよう努めている。</p>	<p>ユニット会で、本人本位となるよう、職員皆で活発に意見交換して検討している。利用者のつぶやきを大事に、ノートに書き留める試みもしている。困難な方に付いては、研修も兼ねて、記録方法、視点を変えて、全員で検討してみる試みも実施している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人の意向を大切に特に家族に生活歴・サービス利用歴などを聞かせて頂き、これまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。また、面会者や本人の話しからもこれまでの暮らしのヒントを得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の申し送り時一人ひとりの様子に付いて確認し合っている。(記録・口頭) 毎月の代表者会議、ユニット会議においてケースカンファレンスを行い情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフは日常の様子や介護計画の実施状況の把握を図り、毎月評価しユニット会議で再度評価しモニタリングを行い介護計画の見直し、改善を図っている。本人・家族の意見が反映しているか面会時などにかがいが同意を得ている。	開設以後、試行錯誤しながら、ユニットで話し合い、計画、評価、モニタリング、介護計画の見直し、計画に沿った実施と現状に即した会議計画と実施の記録となるように努めている。日々の記録は、丁寧に簡潔明瞭に記録されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や介護計画の実施記録には日々の様子や気づき、つづやきなどを書き入れ、情報を共有し、介護計画の見直しにも役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との関わりなど本人の要望、思いを優先するよう取り組んでいる。業務に支障有る場合は職員間の連携により業務内容の調整を図り臨機応変に対応できるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流センター・児童館の児童との交流ができ、また、催しに声掛けを頂き楽しませて頂く事ができた。近くの公園に行き保育園児親子と挨拶するなど地域の方との関わりが増えている。社協よりボランティアの受け入れに広がりを持てた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のかかりつけ医を継続か協力医を希望するか選択して頂いている。協力医は月2回往診し症状により随時往診も行っている。通院の付き添いは家族・職員で行っている。双方向での情報の共有化を図り、希望に応じた対応に努めている。	専門の先生は継続することも多いが、家族、本人の事情に合わせて選んで頂いている。通院の付き添いは、職員でも可能である。家族、事業所、医療機関の情報共有は紹介状の活用も含めて、適切な対応に努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職兼務の看護師1名が常勤となっている。日常の関わりの中で情報、気づきに対応している。居ない時は管理者ができる範囲で適切な受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時本人の情報提供を行い安心して治療できるよう支援している。必要に応じて家族、医療機関との情報交換を行い、退院の目途に付いては病院と確認し合い、安心して早期退院受け入れができるよう支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・看取りの指針に付いて説明して同意を得ている。利用者の状況に応じて、主治医、本人、家族と話し合いグループホームでできる事を3者の理解、合意の上、共有し取り組んでいる。	契約時から説明し、病状の変化に応じて、その都度、説明に努め同意を得ている。主治医、家族、事業所とどこまで対応できるか、その都度確認している。職員も、看取りに向けて研修を実施しており、事例はまだないが対応可能な体制を取り、日々の支援に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中に急変時の対応・緊急時の対応に付いて盛り込み勉強会を行っている。利用者の事故など危険予知訓練を踏まえ、予想される急変に付いてもスタッフ間で情報を共有している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜想定避難誘導通報初期消火訓練を実施し、1回目消防員による初期消火、消火器の使用法、119番通報等訓練、講習、指導を受けた。2回目は夜間想定で防火管理者より、講習、避難誘導通報初期消火の模擬訓練を行った。	運営推進会議を活用して、1回目の訓練を実施している。また、カラー写真入りの見やすいマニュアルを作成し、職員全員に配布している。2回目は夜間想定で昼間に実施している。備品として、ヘルメットを購入し、活用が期待されている。備蓄品、備蓄食料も、工夫して準備している。	様々な災害(停電、雪害などを含めて)を想定し、地域と連携した訓練や地域の防災訓練への参加が望まれる。また、年2回だけではなく、全職員が通報訓練を経験するような計画と実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	笑顔と挨拶(礼節)のある暮らし、公平な対応をし名前は姓で呼ぶことを大事としている。排泄介助等日常の暮らしの中にもプライバシーを損なわない、プライドを傷付けない声掛け、優しい対応に力を入れるよう配慮している。	計画的に研修を実施し、日々のケアの中でも職員の対応、声掛けに管理者を始めとして職員は配慮に努めている。排泄介助等暮らしの中の何気ない対応にも、職員がお互いに確認し、注意ができる関係づくりにも努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を大切にいつも、声掛けや会話をしながらうかがい希望があれば無理の無い範囲で対応する。自己決定の尊重は社訓にも有り常に意識を持って努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の「だらしくなくていい」「ゆっくりでいい」「できなくていい」「わがままでいい」この思いを常に念頭に置きその人らしい暮らしの基としている。利用者のペースに職員が合わせる支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣類は自分で選んで頂いたり装飾品や化粧をしていた方には今までの生活の継続性を大事に支援している。理髪も本人の希望を聞いて頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで利用者の力量に合わせて支援し見守っている。特に食器を拭く、配膳下膳等役割という意識を持って自発的に手伝いに入られる方もある。献立には、利用者の希望をできるだけ反映させるようにしている。	献立は、1週間ごとに2人の担当者が作成している。利用者のつばやきから、季節の物や好みの料理も取り入れている。ユニットごとに調理しており、野菜の下ごしらえなど利用者の力が発揮されている。夏には、庭の野菜を収穫して、食卓に並ぶこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの希望、状態に合わせて食事の摂取量、水分量の確認をし必要に応じてチェック表に記入し経過観察をし食事形態盛り付け等にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や能力に応じたケアをしている。毎食後声掛け誘導している。なるべく本人の意思や意欲を取り入れたケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じた排泄方法と場所、時間、習慣、介助方法を検討してケアの共有化を図っている。チェック表を元に排泄パターンや仕草を把握し、トイレでの排泄を目標としてタイミングをみて声掛けをし不快な思いの軽減に努めている。	トイレには、分かりやすい札が目線に付けられている。排泄の自立に向けて、一人ひとりに応じたプランを立案し、ケア方法を統一して日々の支援に努めている。声掛けのタイミングも利用者に合わせて行い、職員同士が連携に努めている様子もうかがった。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し水分補給、身体を動かすことを進めたり便通の良い食材を取り入れるなど便秘予防に努めている。必要に応じて医師に相談し下剤など排便コントロールを取り入れる事も有る。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を確認し健康面、精神面を把握し、週2回以上の入浴ができるよう支援している。コミュニケーションの場としても本人に寄り添った支援をしながら楽しんで頂いている。	入浴は、夜勤者の出勤に合わせて夕方を原則にし、週2回以上を原則にしている。夕方のためか、拒否する方は現在おられない。ゆず湯、カミツレの湯なども楽しまれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後の就寝時間は自由である。一人ひとりの思いで居室に入り休まれる。夜間不眠の方には室温、寝具の調整、照明、また、日中起きている工夫など改善に付いて話し合いケアの共有化に努め安眠につなげている。		
47		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は医院からの説明と薬の説明書を参考に理解の徹底を図っている。お薬係りを主に申し送りノートを活用し誤薬の無いように対応している。服薬時、時間と名前を声を出して確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味、嗜好、習慣を把握し楽しみにしていたこと、やりがいを持っていたことを活かせるよう、そしてそれぞれの役割を持って生活ができるよう取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望を入れ季節に合わせてドライブ遠足に出掛けている(他施設との交流、外食を楽しむ)。家族と本人との外出などもできるような面会時に働きかけ、行って頂いている。	季節ごとのドライブでは、時にはお寿司を楽しむなど日々の支援に努めている。家族の面会時に外出される方も多数おられる。季節によっては、事業所のテラスに椅子を置き、戸外の空気を楽しまれている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は本人の希望により所持されている方もいるが、基本的に小遣いは施設で預かっている。本人・家族の希望により使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望者には制止せず、本人が電話ができるようにしている。携帯電話を持ち家族との会話を楽しまれている方もいる。年末には年賀状を職員と一緒に書いて楽しんだ。沢山の年賀状を頂いた方もいる。友人との年賀交換もされている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房、床暖と年間を通じて快適な温度設定ができる。床のフローリング、壁、照明にこだわりを持ち白を基調とした内装、外はパードウォッチング。ウッドデッキは共用の場としても多目的に活用できる。	居間から食堂は広く、ゆったり落ち着く空間である。窓からは、北アルプスを望め、隣地の雑木林の野鳥、白鷺が来るのを楽しみにしている利用者がおられる。壁には、利用者作成の干支の壁掛け、書道や塗り絵などが掲示されている。玄関に、季節の花や鉢植え、夏の花壇には花と野菜畑が見える事業所である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、フロアは快適な暖かさの中でゆっくり寛げる空間となっている。気の合った同士で話をしたり皆で楽しめる雰囲気、場所づくりを工夫している。隣のユニットとの出入りは自由で“お隣さん”的関わりとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活の継続性を大事にし馴染みのある家具、写真、置物を持ち込み利用者と家族により自由に居室内の配置をして頂いている。	レンタルベッドと備え付けのロッカー以外は、それぞれの利用者に合わせて、家族の協力により過ごしやすいように配置されている。(位牌、写真、置物、壁掛け、敷物、携帯電話、布団、掛け物など)	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用箇所には障害物を置かないよう整理・整頓に心掛けている。屋内は玄関から全面フラットとなっており自由に往来ができ、自室は覚えて頂くまでの工夫、トイレには分かり易い工夫を取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「ほっとハウス・おひさま暮らし」を基本理念とし玄関、事務所、各ユニットに掲示し、共有できるようにしている。また、全体会議、内部研修、個人面談など折に触れて理念に付いて確認し合っている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>課題であった地域とのつながりは夏祭りの開催により参加者も多く、盛大に開催できた。近くの交流センターの児童や関係者との触れ合い、散歩時の挨拶、高校生のボランティア、社協との協力をしボランティアをお願いするなど広がりができた。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方などの施設申し込み、見学の希望時に認知症を持つ家族の悩み相談を受けたり認知症に付いて話をする機会を持っている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヵ月に1回開催をし、行政、地域、施設の内容など双方向での理解を目的とした内容。実際に職員の対応状況、食事内容など見て頂き、また、家族会に参加して頂く機会が持てた。意見、アドバイスなどを頂き、サービスの向上につなげている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>認定調査時、また、運営推進会議の機会に事業所の日頃の様子をお知らせしたり、意見、情報を頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」については会議、内部研修、外部研修にも参加し意識の共有化を図っている。玄関の施錠はしない事を基本としているがやむを得ない場合はスタッフの連携の中で開放に努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法の研修会を設け防止意識を深め、また、外部研修参加者より復命説明をして頂き認識を高めている。入浴時外傷などないかチェックをしている。確認されれば原因の明確化に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度においては行政機関の説明会に参加し理解を深めている。日常生活支援事業や成年後見制度の活用などに付いては必要時社協や市の担当者で話し合いを持ち、相談を受けられるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはきちんと説明し、不安や疑問点に付いては理解し納得頂けるよう説明をしている。入所後に於いても、疑問点などあれば常に質問に応じ理解して頂くよう心掛けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約時には苦情受付窓口について説明をしている。利用者・家族には何時でも何でも話し易い雰囲気づくりに努め、年1回の家族会の意見などはスタッフのサービス向上に反映されている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課が導入され、年2回の自己評価表の提出を義務付け、面談を行う。自由に意見が言える内容と環境に努めている。また、全体会議、ユニット会議でも自由に何でも言える雰囲気作りに努めている。意見は各所に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事制度による賃金規程を作成し、個々の努力や実績、勤務状況により、昇給、昇格を行い、各自が向上心を持って働ける仕組みがある。また、定年退職後の職員も個々の雇用契約で延長しながら、経験を活かした働き方も取り入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行っている。研修テーマは、介護現場で必要な研修はもとより、当該ホームで必要とされる研修を随時取り入れている。外部研修も希望者は参加できるよう働き掛けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社グループの事業所の職員との交流を図ったり、外部研修などで他事業所の方との意見交換をできるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と家族との面接を行い様子や性格、心配事などの把握に努め、特に入居1ヶ月程は様子を見守り、情報の共有化を図り、気持ちを引き出せるよう努め、穏やかなケアにより安心・安全な関係作りにつなげている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方にも、今までの暮らしの様子、習慣などをうかがい、グループホームでの生活との違いを理解して頂き、家の生活が継続できるように。家族との不安や要望に添えるよう、関係作りを進めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に現況を十分うかがい家族・利用者の求めていることは何かを把握し状況により他機関の紹介も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔と挨拶(礼節)のある暮らし、公平な対応をし名前は姓で呼ぶことを原則としている。排泄介助等日常の暮らしの中にもプライバシーに配慮し、プライドを傷付けない対応を心掛けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にホームの暮らしの状況を伝えたり、毎月のユニットだよりには活動内容や現況を添えている。状態により連絡を要すると判断する場合は相談、面会をお願いしている。来られた場合は気軽にお話ができるよう雰囲気づくりをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友達・親戚などの関係が途切れないよう何時でも来て頂けるよう雰囲気づくりをしている。友人との交流。年賀状の交換など関係性の継続がある。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し和やかな交流が自然にできるような雰囲気づくりに努め、孤立しがちな方には、皆で楽しめるようなレクリエーションなどを工夫し、また、見守ることで安心感につなげている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後会う機会がある時など失礼にならないよう、様子をうかがったり相談に乗るなど関係が継続されている事例は有る。今後も大事にしていきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の普段の会話や何気ないつづきやきを大事に、思いや暮らし方の希望、意向を把握しカンファレンスしている。意思表示の困難な方に付いては家族の協力や本人の表情、しぐさから得て本人本位のプランにつなげるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人の意向を大切に特に家族に生活歴・サービス利用歴などを聞かせて頂き、これまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。また、面会者や本人の話しからもこれまでの暮らしのヒントを得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の申し送り時一人ひとりの様子に付いて確認し合っている。(記録・口頭)毎月の代表者会議、ユニット会議においてケースカンファレンスを行い情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフは日常の様子や介護計画の実施状況の把握を図り、毎月評価しユニット会議で再度評価モニタリングを行い介護計画の見直し、改善を図っている。本人・家族の意見が反映しているか面会時などにうかがい同意を得ている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や介護計画の実施記録には日々の様子や気づき、つづやきなどを書き入れ、情報を共有し、介護計画の見直しにも役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との関わりなど本人の要望、思いを優先するよう取り組んでいる。業務に支障有る場合は職員間の連携により業務内容の調整を図り臨機応変に対応できるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流センター・児童館の児童との交流ができ、また、催しに声掛けを頂き楽しませて頂く事ができた。近くの公園に行き保育園児親子と挨拶されるなど地域の方との関わりが増えている。社協よりボランティアの受け入れに広がりを持たせた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のかかりつけ医を継続か協力医を希望するか選択して頂いている。協力医は月2回往診し症状により随時往診も行っている。通院の付き添いは家族・職員で行っている。双方向での情報の共有化を図り、希望に応じた対応に努めている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職兼務の看護師1名が常勤となっている。日常の関わりの中で情報、気づきに対応している。居ない時は管理者ができる範囲で適切な受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時本人の情報提供を行い安心して治療できるよう支援している。必要に応じて家族、医療機関との情報交換を行い、退院の目途については病院と確認し合い、安心して早期退院受け入れができるよう支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・看取りの指針に付いて説明して同意を得ている。利用者の状況に応じて、主治医、本人、家族と話し合いグループホームでできる事を3者の理解、合意の上、共有し取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画の中に急変時の対応・緊急時の対応に付いて盛り込み勉強会を行っている。利用者の事故など危険予知訓練を踏まえ、予想される急変に付いてもスタッフ間で情報を共有している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力的体制を築いている	年2回の昼夜想定避難誘導通報初期消火訓練を実施し、1回目消防署員による初期消火、消火器の使用方法、119番通報等訓練、講習、指導を受けた。2回目は夜間想定で防火管理者より、講習、避難誘導通報初期消火の模擬訓練を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	笑顔と挨拶(礼節)のある暮らし、公平な対応をし名前は姓で呼ぶことを大事としている。排泄介助等日常の暮らしの中にもプライバシーを損なわない、プライドを傷付けない声掛け、優しい対応に力を入れるよう配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を大切にいつも、声掛けや会話をしながらうかがい希望があれば無理の無い範囲で対応する。自己決定の尊重は社訓にも有り常に意識を持って努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の「だらしくなくていい」「ゆっくりでいい」「できなくていい」「わがままでいい」この思いを常に念頭に置きその人らしい暮らしの基としている。利用者のペースに職員が合わせる支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣類は自分で選んで頂いたり装飾品や化粧をしていた方には今までの生活の継続性を大事に支援している。理髪も本人の希望を聞いて頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで利用者の力量に合わせて支援し見守っている。特に食器を拭く、配膳下膳等役割という意識を持って自発的に手伝いに入られる方もある。献立には、利用者の希望をできるだけ反映させるようにしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの希望、状態に合わせ食事の摂取量、水分量の確認をし必要に応じてチェック表に記入し経過観察をし食事形態盛り付け等にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>一人ひとりの口腔状態や能力に応じたケアをしている。毎食後声掛け誘導している。なるべく本人の意思や意欲を取り入れたケアを行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりに応じた排泄方法と場所、時間、習慣、介助方法を検討してケアの共有化を図っている。チェック表を元に排泄パターンや仕草を把握し、トイレでの排泄を目標としてタイミングをみて声掛けをし不快な思いの軽減に努めている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック表を活用し水分補給、身体を動かすことを進めたり便通の良い食材を取り入れるなど便秘予防に努めている。必要に応じて医師に相談し下剤など排便コントロールを取り入れる事も有る。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>利用者の希望を確認し健康面、精神面を把握し、週2回以上の入浴ができるよう支援している。コミュニケーションの場としても本人に寄り添った支援をしながら楽しんで頂いている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夕食後の就寝時間は自由である。一人ひとりの思いで居室に入り休まれる。夜間不眠の方には室温、寝具の調整、照明、また、日中起きている工夫など改善に付いて話し合いケアの共有化に努め安眠につなげている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は医院からの説明と薬の説明書を参考に理解の徹底を図っている。お薬係りを主に申し送りノートを活用し誤薬の無いように対応している。服薬時、時間と名前を声を出して確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味、嗜好、習慣を把握し楽しみにしていたこと、やりがいを持っていたことを活かせるよう、そしてそれぞれの役割を持って生活ができるよう取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望を入れ季節に合わせてドライブ遠足に出掛けている(他施設との交流、外食を楽しむ)。家族と本人との外出などでもできるような面会時に働きかけ、行って頂いている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は本人の希望により所持されている方もいるが、基本的に小遣いは施設で預かっている。本人・家族の希望により使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望者には制止せず、本人が電話ができるようにしている。携帯電話を持ち家族との会話を楽しまれている方もいる。年末には年賀状を職員と一緒に書いて楽しんだ。沢山の年賀状を頂いた方もいる。友人との年賀交換もされている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房、床暖と年間を通じて快適な温度設定ができる。床のフローリング、壁、照明にこだわりを持ち白を基調とした内装、外はバードフロッチング。ウッドデッキは共用の場としても多目的に活用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、フロアは快適な暖かさの中でゆっくり寛げる空間となっている。気の合った同士で話をしをしたり皆で楽しめる雰囲気、場所づくりを工夫している。隣のユニットとの出入りは自由で“お隣さん”的関わりとなっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活の継続性を大事にし馴染みのある家具、写真、置物を持ち込み利用者と家族により自由に居室内の配置をして頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用箇所には障害物を置かないよう整理・整頓に心掛けている。屋内は玄関から全面フラットとなっており自由に往来ができ、自室は覚えて頂くまでの工夫、トイレには分かり易い工夫を取り入れている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	火災など災害時の地域の協力体制作りと、全職員の災害を想定した訓練体験をより確実に積み安心して働きやすい職場作りを進めなければならない。	(1)火災など災害時の近隣・地域の協力体制が得られ関係づくりにつながるができる。 (2)年間の防災訓練回数を増やし全職員が体験をすることで、通報、避難方法の共有化が深まる。	1- 運営推進委員を通じて協力体制に付いて関係作りをする。 2- 訓練回数を多くし(会議・研修などの機会)全職員が通報、避難訓練などを体験する。 2- 災害時対応マニュアルを内部研修等で職員間で共有できるようにする。	12ヶ月
2	2	事業所と地域のとの付き合い。利用者が地域とつながりながら笑顔のある暮らしを続けられる事業所に向けて。	(1)地域の社会資源を知る。 (2)学校、交流センター(児童館)などとの相互関係を持つ事ができる。	1- 運営推進会議などで地域の皆様との関係づくりについて話し合い深めていく。 1- 社会資源活用について話し合いを持つ。 2- ボランティア、学校、児童館などと交流を図れるように努める。	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。